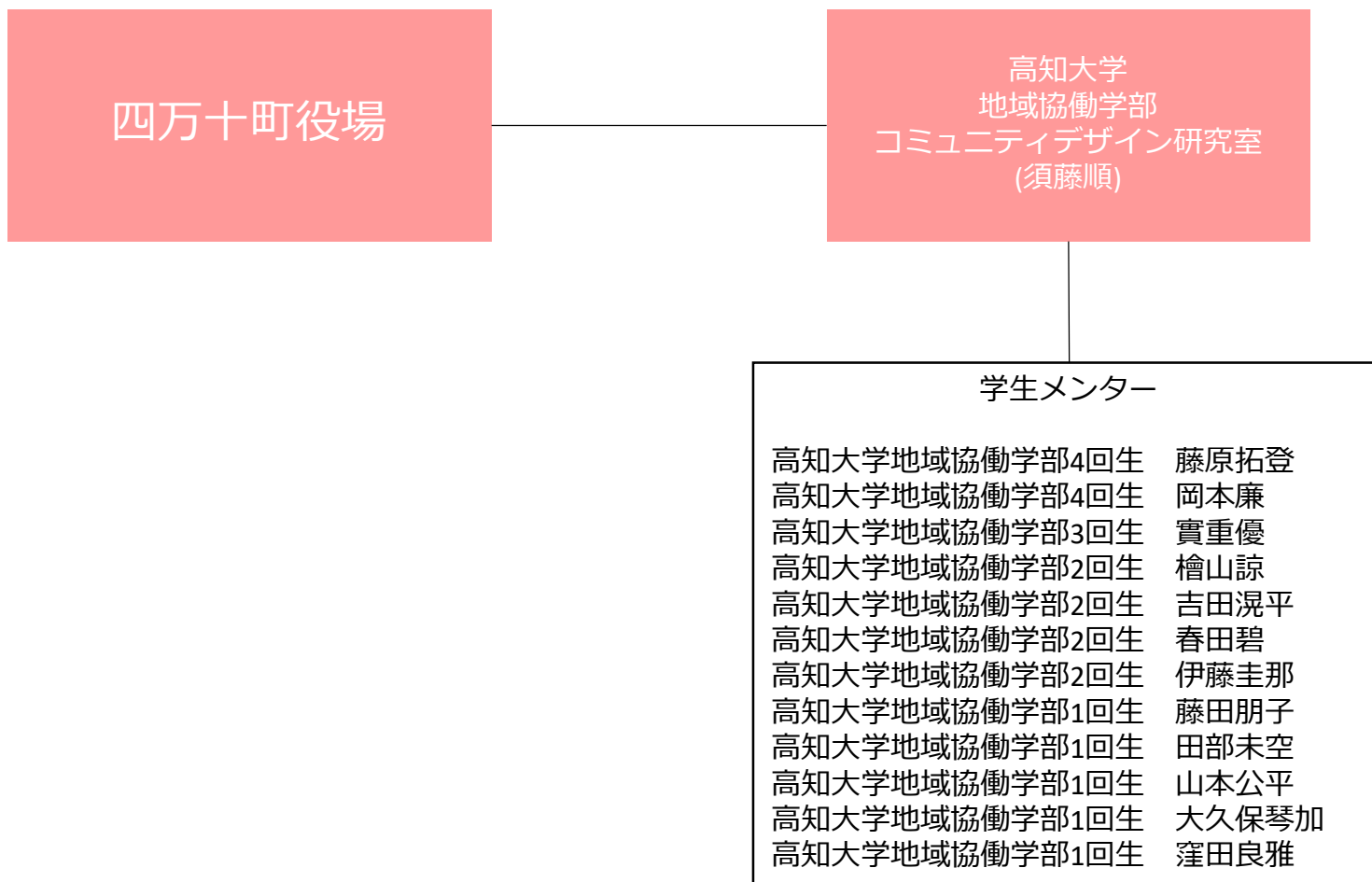


2019年度 四万十町地域イノベーター養成講座 第3回 ビジュアルレポート

高知大学地域協働学部
コミュニティデザイン研究室



**1人ひとりが自分事として、
地域課題解決や活性化を目指す
「チャレンジする人材」の学びの場**

- 1 一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション（使命）を見つけ出す
- 2 “ジブンゴト”で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す
- 3 ジブンゴトのプロジェクト（マイプロジェクト）に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

自分に基づいた (My)

「何かを、プロジェクトの形にして (pjt) やってみる」

ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

自らの経験の中から、

自分のミッションを生み出していく

マイプロ Me編	名前 (ニックネーム、読んでほしい名前、その由来)	作成日： 場所：
似顔絵・写真	みんなが知らない自己紹介	
自分ヒストリー 音 (～)学校	人生グラフ：横軸は年で、縦軸はイキキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、沈んでいた時を見る化しよう！	
(～中学・高校)		
(～専門・大学)	みんなが知らない自慢・一発芸・得意技	
(～現在)		
今		
マイプロジェクトの源泉へ		

← me編シート

- ・自分のライフヒストリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
- ・自分の人生をグラフにしてみる
- ・普段見せない自己紹介

project編シート→

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
- ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

PROJECT編	
わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で！	
■実践したいプロジェクトの概要	
■「やってみたい！」と思った、理由や背景、原体験	■「誰」にどんな価値を生み出しますか？

- ① **Why** : どんな「わたし」が何を夢描いているのか？
- ② **What** : それを実現する、何をするプロジェクトなのか？
- ③ **How** : プロジェクトを進めるため、進捗を管理しよう



① **Why?**

プロジェクト

② **What?**

プロジェクト

プロジェクト

わたしたち



③ **How?**
進捗管理

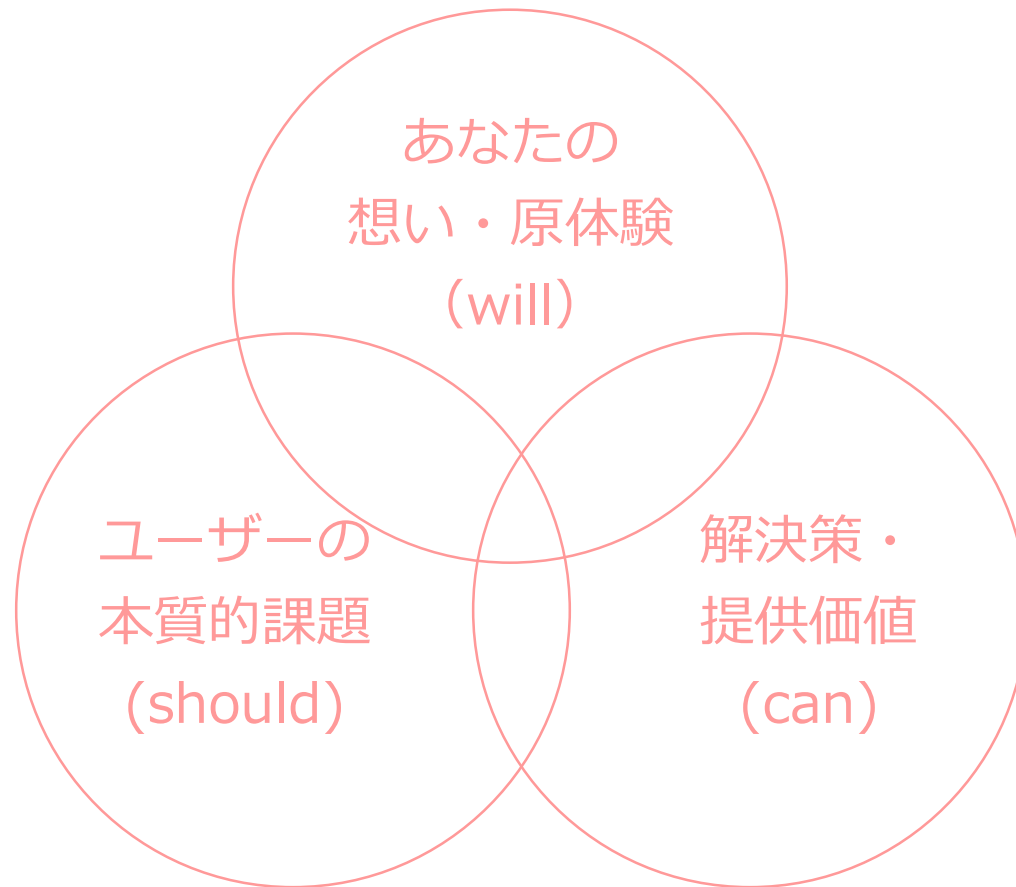
ビジョン実現に向けて、学習と軌道修正をくりかえす

マイプロジェクト =
自分に基づいた (my)
「何かを、プロジェクトの形にして (project) やってみる」ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

挑戦を支える“居場所”(セーフスペース)

- 自分たちとプロジェクトの“つながり”
- Yes, Andできる仲間やコミュニティの存在

出所: ボーンSTEIN& デイヴィス(2010訳書, p.104) 追加筆修正
※ 井上英文作成



【実施概要】

- 実施名称 四万十町地域イノベーター養成講座 第3回
- 日 時 令和元年10月5日（土） 11時00分～17時00分
- 会 場 四万十町役場農村環境改善センター
- 主 催 四万十町・高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室
- 実施内容 一人一人がジブンゴトとして、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の学びを支援する「地域イノベーター養成講座」の第3回目を開催した。

【タイムライン】

- 11 : 00 あいさつ 須藤順（高知大学地域協働学部）
- 11 : 10 チェックイン&自己紹介
- 12 : 30 BBQ
- 14 : 00 LSPワーク
- 17 : 00 クロージング

夏季に行ったアクションを学生メンター、受講者全員で共有をした。
前回の講座から2か月も間が空いていたため、皆が顔を合わせるのは久しぶりであったが、受講生は緊張した様子はほとんどなく、場全体が和ましい雰囲気であった。



お昼には参加者全員でBBQを行った。四万十豚、カレー、鮎、炊き込みご飯などもあり、贅沢なお昼ご飯だった。BBQをする中で、受講生同士や、受講生と学生メンター間でマイプロの話をしたり、近況報告や最近の悩みの相談などをしたりしていた。参加者同士で意見交換も活発に行われ、有意義な時間となった。



お話をしている様子



マイプロ意見交換の様子



BBQの様子



机を囲んでの食事

午後はLSPをおこなった。今まで見たことがない種類のLECOブロックがたくさんあり、いつも以上に参加者はLEGOを興味深くさわっていた。LEGOの種類が増えたこともあり、より立体的な作品や細かい部分まで表現されている作品がつくられていた。



LSPの様子



受講生の発表の様子



LSP作成

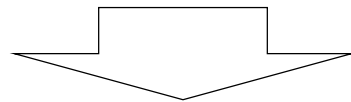


受講生のLEGO作品

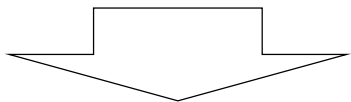
LSPを使い、テーマにそって作品をつくり、その作品の詳細の共有を行った。今回はチーム内でいつも通り自分の作品の説明をしたあと、チーム内の1人が全員の作品の説明を行うというワークを実施した。参加者は、同じチーム内の参加者の作品の説明を聞きもらさないようにしっかりと耳を傾けていた。



STEP1: “My Story” → “It’s me ”



STEP2: 「共に」 一歩踏み出す



STEP3: 仲間として支え合う

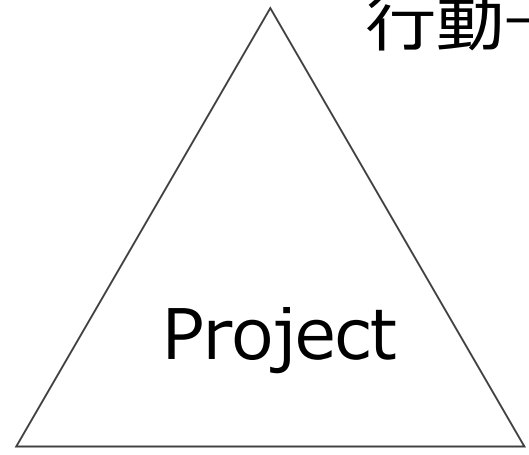
変化歓迎・失敗歓迎・立ち止まり歓迎

プロジェクトの成功より、

一人一人が自分の人生を生きているかどうか？

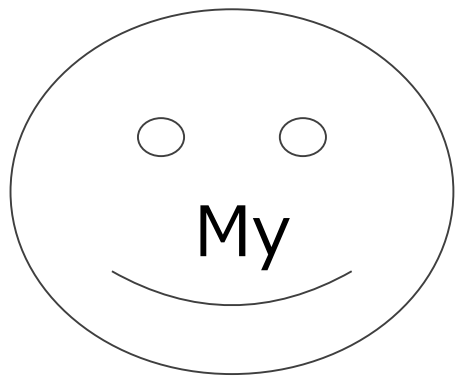
行動→気づきと仲間

「わたし」
のWill



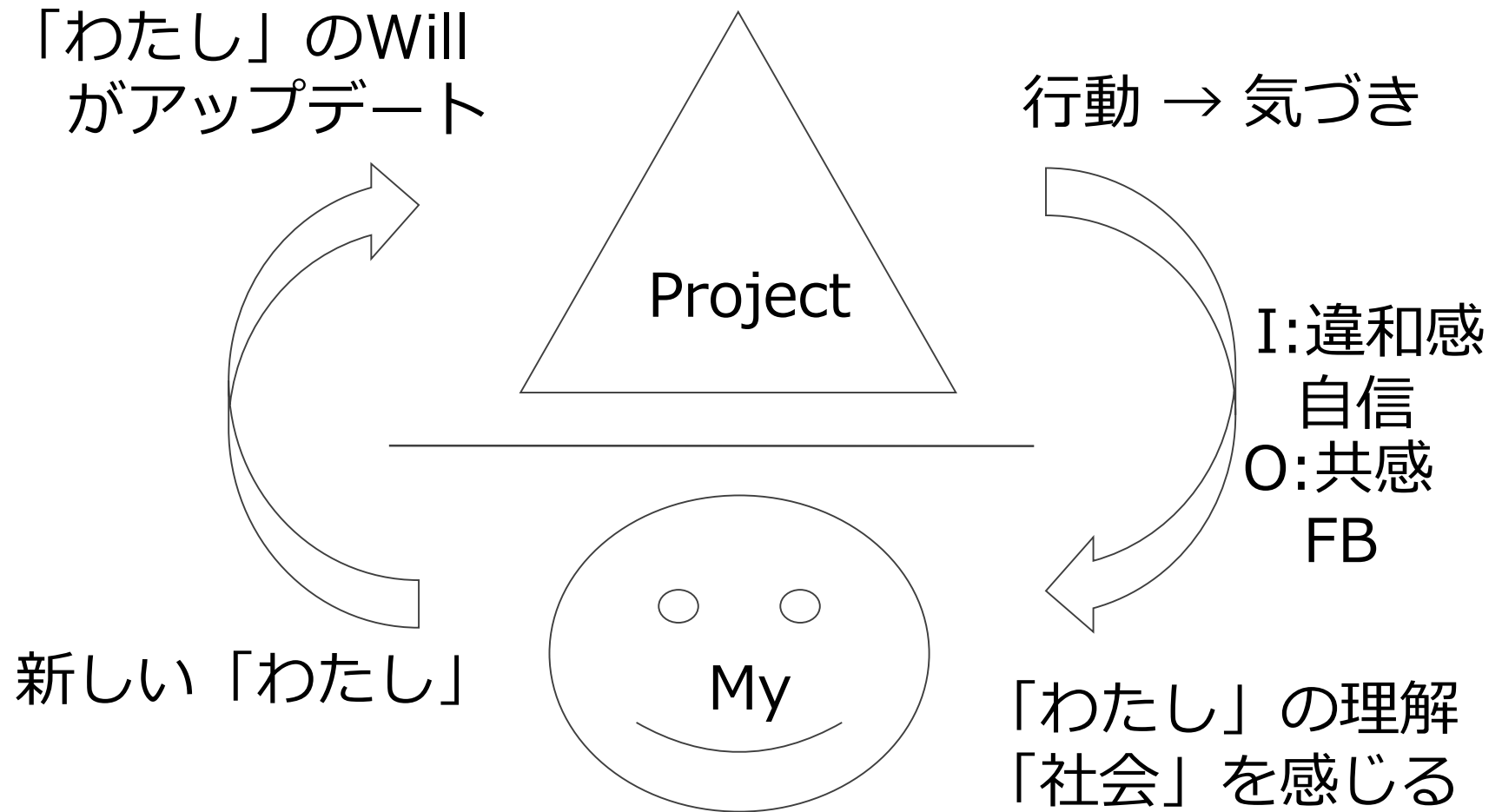
賞賛
共感
違和感
失敗
成功

新しい「わたし」



自信
「わたし」の理解

出所：ビジネス・ブレイクスルー大学 須子善彦氏作成資料より



出所：ビジネス・ブレイクスルー大学 須子善彦氏作成資料より

① マイプロシート(me & pjт編)をみんなの前でシェア



② みんなからフィードバック



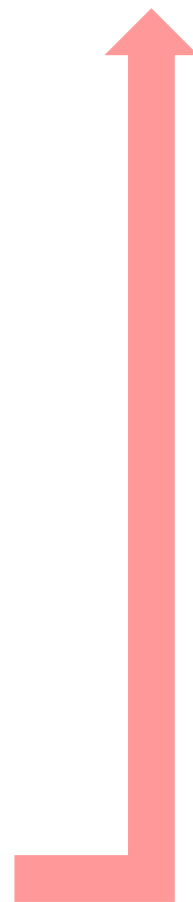
③ プレゼントカードを書いて渡す



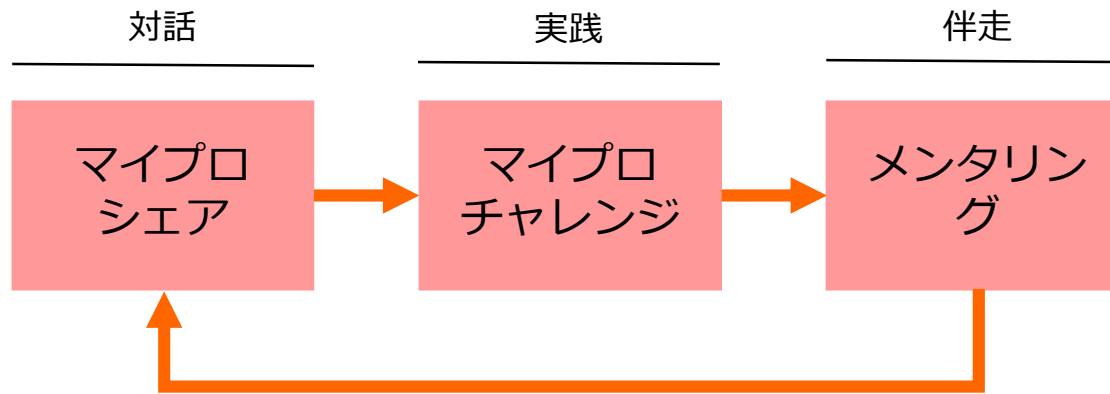
④ アクションを試してみる



⑤ 気づきを踏まえてシートを書き換える



※みんなで支え合いながら、
このサイクルを超高速で回していく



- 四万十町地域イノベーター養成講座は、誰かが知識や方法論を教えるのではなく、受講生一人ひとりと大学生メンターと一緒にマイプロジェクトを進め、喜びや悩み、想いを共有しながら一歩ずつ前に進んでいくことを目指します。
- 対話を通じて一人ひとりのマイプロを共有し、一人ひとりが小さな実践を行い、それを受講生と大学生が相互にメンタリングを行いながら、「本当に自分がやりたいこと」に取り組んでいきます。
- こうしたプロセスを通じて「ジブンゴトをミンナゴト」にしていくための一人ひとりに法則を見つけ出していきます。
- 地域にイノベーションを起こすためには知識や方法論、メソッドはもちろん、本当に自分がやりたいこと、気になることを、仲間とともに小さな一歩を進めることから始まる、というのが私たちの基本的な考えとして講座を進めていきます。

四万十町役場人材育成推進センター

担当：横山 光一

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

TEL 088-022-3163 FAX 088-022-3123

E-mail 103060@town.shimanto.lg.jp

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：講師 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail j.suto@kochi-u.ac.jp

Web <http://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。